

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌



KEIWA COLLEGE REPORT

第36号

October 2003

発行／敬和学園大学広報委員会



菅野由貴子作「ねこたブブビ海のなか」より

CLOSE UP

「絵本とわたし」 1994年度卒業生 菅野 由貴子

ボランティアへの取り組み

教職課程から 教育実習／事前指導研修のご報告

就職にむけて インターンシップ／OB・OGとの就職懇談会

共生社会学科新設記念 公開学術講演会のご案内

共生社会学科新設記念 特別講演会のご報告

2004年度入試のご案内／敬和祭のご案内

2003



8月27日から29日に城下町新発田ふるさとまつりが開催されました。

敬和学園大学は、開学以来、この地元のお祭りの民謡流しに学生と教職員がいっしょになって参加しております。みんなで集まっての練習を数回行い、当日は揃いの浴衣を着付けして（大学の軽トラックもドレスアップして）踊ります。

今年は、学生37名、教職員20名の参加となりました。このような地域のイベントに参加することは、学生にとってなによりの思い出となることでしょう。

もくじ

CLOSE UP 「絵本とわたし」菅野由貴子	1	共生社会学科新設記念 公開学術講演会のご案内	9
ボランティアへの取り組み	4	「3年生保護者との就職懇談会」のご案内	9
卒業生はいま 横沢真吾	5	「1・2年生保護者との懇談会」のご案内	9
飯田圭子	5	共生社会学科新設記念 特別講演会のご報告	10
教育実習のご報告	6	2004年度 入試のご案内	11
教育実習事前指導宿泊研修を終えて	6	寄付者ご芳名	11
在校生のみなさんへ 森 美智子	7	第13回 敬和祭のご案内	12
リフレッシュ・セミナーのご案内	7	学事予告	12
就職にむけて インターンシップ制度	8	キャンパス日誌	13
OB・OGとの就職懇談会	8		

<表紙写真> 「ねこたプピピ海のなか」
CLOSE UPにご寄稿いただいた菅野さんの絵本の原画です。(p.1)

CLOSE UP

「絵本とわたし」

一九九四年度卒業生

菅野由貴子

●進路を決めた大学時代

今でも覚えています。

イラストの仕事と平行して、前からやっていた銅版画も、プレス機（銅版を刷る機械）を画家だった祖父から譲ってもらい、本格的に始めました。しばらくして作品がたまたまつたので、知り合いの画家を見てもらいました。その方から「個展をやつたらどうか」と勧められましたが、最初は戸惑いました。しかし、熱心に勧めてくださるので、力不足とは思いましたが、勉強の場だと思い、やることにしました。そして、怖いもの知らずで、いきなり銀座。今考えると、無謀だったとしか思えません。

やはり銀座という土地柄からか、多くの人の肥えた人たちがいます。画家や評論家の人たちと話す機会もあり、とても勉強になりました。この時に、ポプラ社と福音館書店の方も見に来てください、「いつかご一緒できたらいいですね」と言つて帰つていかされました。私は夢のような話に思えました。翌年、両社から絵本出版の話があり、それが今に続いています。

その一方で、将来は絵の仕事をやりたい

というのも頭の隅にあつたので、ある出版社

にものは試しと履歴書を出しました。この時に、「ぜひ、やつてほしい」ということになり、四年生の時から、月十枚のイラストの仕事を始めました。これが今の私になりました。この不況は私にとってつながっています。この不況は私にとって、「自分が何がしたいのか」と、立ち止まつて考える良い機会となりました。

いろいろな月刊誌に自分の描いたイラストを持って回りました。でも、なかなか思うように仕事は来ませんでした。初めて雑誌『an・an』の仕事をして、自分の名前が載った時、とてもうれしかったことを



第1回銅版画展（銀座）

●絵本を出版するまで

敬和学園大学を卒業し、八年が経ちました。八年という歳月は、長いようであつといふ間でした。

卒業後、学生時代から続けていたイラストの仕事を発展させ、絵の関係の仕事ができたらと思つていました。しかし、まわりの友人たちが毎日会社に出勤して一生懸命働いているのを見て、「本当に絵の道でやつていけるのか」とひとり不安になることもあります。アルバイトを続けながら、ありました。アーティストを続けて、自分の名前

私たちは大学に入学した一九九一年は、バブル真っ盛りでした。当時の事務局長さんは「就職先は、全員保証します！」と、自信満々におっしゃっていました。地元にある一流企業がやつて来るという噂もあり、みんなそこに就職できるのかな?と思つたこともあります。でも将来のことなど特になにも考えず、毎日を楽しく過ごしていました。しかし、あつという間にバブル崩壊。学年があがるにつれてどんどん経済は悪くなり、もちろん噂の一流企業も来なくなり、就職活動を始める頃は、氷河期になつていました。「もうどこでもいいから、就職できればいい」という感じでハガキを出し、会社説明会へと足を運んでいました。

大学時代にゼミでお世話をなつた神田先生には、「決めたからには、十年は続けるさい。十年やれば、きっとなにかものにつづっているから」と、励まされました。考えなければ、私はいつたい何をしていたのか、またま運がよかつたということもあります

私たちが大学に入学した一九九一年は、バブル真っ盛りでした。当時の事務局長さんは「就職先は、全員保証します！」と、自信満々におっしゃっていました。地元にある一流企業がやつて来るという噂もあり、みんなそこに就職できるのかな?と思つたこともあります。でも将来のことなど特になにも考えず、毎日を楽しく過ごしていました。しかし、あつという間にバブル崩壊。学年があがるにつれてどんどん経済は悪くなり、もちろん噂の一流企業も来なくなり、就職活動を始める頃は、氷河期になつていました。「もうどこでもいいから、就職できればいい」という感じでハガキを出し、会社説明会へと足を運んでいました。

が、先生や家族、友人が応援してくれたから、ここまで頑張れたのだと思います。

●絵本製作の面白さ

絵本は、まさに空想の世界。お話を考へる時、私の場合、映像が先に浮かんできます。そんな風にしていつぱいたまたお話からひとつに絞って、製作を進めていきます。空想している間は楽しいのですが、一冊の本となると、絵本の流れ・コマ数・起承転結など制約があり、考え、悩みます。それが出来上がっていくのは、本当にワクワクします。一冊の本となって本屋に並んだときは、大事に育てた我が子をやつと独り立ちさせたような気持ちになります。書店で自分の本が奥にあると、さりげなく前に出したりしてしまいます。

いい音楽を聴いたり、展覧会を見たり、旅行したりするさまざまな経験が、私の栄養となり、それがお話を作るときや絵を描くときにとって役立ちます。ですから、いつもおもしろいものをキャッチできるように心がけています。つい先日も、絵本作家の友人と喫茶店でババロアを食べながら、ババロアから話がふくらんでひとつのお話ができてしまいました。（今度、その友人は出版社に持つて行くそうです。）こんな調子ですので、特別な出来事よりも日常のちょっととしたことがお話になることが多いかもしれません。

家では、子どもたちに絵を教えています。

子どもの感性はすばらしく、想像もつかない色や言葉を発します。それもまた、絵本

●最近の生活

今は、その「先生たち」（つまり、子どもたちです）とお話をつくっています。まだこれは誰もやっていないことで、出版社

の材料に大いに役立ち、時には使わせてもらつたりしています。絵本をつくる時、子どもたちになることは大切です。第一に、子どもが「楽しい、おもしろい」と思える

絵本が一冊できるまでに七、八ヶ月かかり、今二冊の絵本が進行中です。その合間に銅版画も制作し、ちょうどいいペースです。仕事が多くなると、心にゆとりがなくなり、イメージも湧いてきません。そうなると、良い作品が描けなくなります。これからも、仕事とゆとりのバランスをうまく取つていければと考へています。

●プラティスラバ世界絵本原画展にて

私は、前々からチエコに興味がありました。チエコには楽しくセンスのある絵本がたくさんあり、人形アニメーションや歴史のあるマリオネットも、その素朴さと独特のユーモアが好きでよく見ていました。このような国で育った子ども達をうらやましく思っていました。今回、その隣国のスロバキアの「プラティスラバ世界絵本原画展（略称BIB）」に私の絵本『へんしんねこ』が選ばれたのを機会に、先日までチエコとスロバキアに行つていました。



沖縄パイナップルを描く子供たち

からも「ぜひ進めるように」と言われているのですが、うまく引き出していくのはなかなか難しいことです。途中までは、「おもしろい、おもしろい。さすが、ちびっ子」と、感心するのですが、ゲーム世代のせいか、最後は戦いになり、血が出て死んで終わり、というパターンになってしまいます。子どもたちがおもしろいと思うことは何なのかと、考えさせられてしまいます。とにかく、この子たちが大きくならないうちに、一緒に絵本ができるたらなあと思つていてます。

絵本が一冊できるまでに七、八ヶ月かかり、今二冊の絵本が進行中です。その合間に銅版画も制作し、ちょうどいいペースです。仕事が多くなると、心にゆとりがなくなり、イメージも湧いてきません。そうなると、良い作品が描けなくなります。これからも、仕事とゆとりのバランスをうまく取つていければと考へています。

CLOSE UP



プラティスラバ世界絵本原画展にて

BIBは、子どもたちのために描かれた世界中の絵本を審査するために、一九六七年に創立されました。以後二年ごとに開催され、今年で十九回目になります。日本人では、第一回に瀬川康男氏がグランプリ、その後何人かが『金のリンゴ賞』を受賞しています。海外で日本の絵本は、非常に高く評価されているのです。

展覧会は、九月一日～十月三十一日の間開かれており、世界各国三百名ほどの原画が展示されています。どれもすばらしく、毎日足を運び、ゆっくり見たい気持ちでした。スロバキア国立劇場（オペラハウス）での式典にも参加することができました。今年のグランプリは日本人でした。グランプリ受賞の時、ファンファーレの中、着物姿で賞を受け取っている彼女を見たときは、同じ日本人としてとても感動しました。その後、スロバキア交響楽団の演奏を聴きましたが、その音響のすばらしさと雰囲気のおかげで夢のようなひとときとなりました。世界各国の絵本作家や関係者が集まる夜のレセプションでは、日本国際児童図書評議会の方から、作家や審査委員を何人か

紹介していただきました。式典の時に親しくなったスロバキア人にも絵本を見せ、プレゼントしました。すると周りの人から「あなたはラッキーだ」と言わされたので、後で聞いてみると、彼はカーライさんという、美術大学の先生もしているスロバキアでは著名な絵本作家だったのです。とても良い出会いができ、本当にラッキーでした。こんなに小さな街なのに、世界的規模の絵本原画展を開き、各国の作家との交流や絵本出版の国際化に力を入れていることに、たいへん驚き感動しました。歴史の深い、すばらしい街です。良い経験ができ、本当に行ってよかつたと思いました。

●自分のライフスタイルを持つて

このような仕事柄、いろいろなライフスタイルの人たちと接する機会があります。それ自ら生き生きと生活している人生の先輩を見ると、私もあのような生き方をしたいなあと思います。

年をとるということはマイナスに考えられがちです。現に「しみ」や「しわ」が、気になる年になりました。でも自分のライフスタイルを持っている人は、年をとつても、さらにいきいきしているように見えます。年齢を重ねた人はさすが経験が豊富なだけあって、若さにはない、なにかすごいオーラがあります。それは、内面から出てくる豊かな生き方ではないかと思います。様々な経験を糧にする人生の積み重ねの中から、自分らしい生き方、ライフスタイルが自然にできていくのだと思います。

菅野由貴子さんプロフィール

敬和学園大学 国際文化学科 一期生
一九九四年度 卒業

●本論
「佐渡の人形芝居と人形師」
（濱田守太朗ライフヒストリー）
（神田ゼミ）

●略歴

一九九七 銅版画展
二〇〇一 創作絵本展
二〇〇二 絵本原画&銅版画展（南青山）
二〇〇三 プラティスラバ世界絵本原画展

●絵本作品

「炉ばたのマーラ」（「おおきなボケット」「オレンジいろのビーチサンダル」）
（銀座）
（新宿）
「おじいちゃんは106歳い」
「へんしんねこた」
「ねこたプブピビ海のなか」
以上福井県書店刊

*「BIB」は、来年七回から、日本全国五ヵ所の市美術館を巡回します。

機会があればぜひご覧ください。

以上ポプラ社刊

ボランティア

ボランティアへの取り組み

本学では開学以来、全国の大学で他に例を見ない先駆的な試みとして全員参加のボランティア体験学習に取り組んできました。いまやボランティア活動は、単に狭い意味での社会福祉や介護の領域だけではなく、社会が全体として関わるあらゆる活動の根本的な推進力となっています。これららの社会にとって何よりも必要とされるのは、他人のため、そして社会のために率先して働くことのできる自主性と、他者と共に暖かい人間関係を築き上げようとする思いやりの心です。

本学が目指すボランティア精神は、建学の理念であるキリスト教主義に基づくものです。競争に勝ち抜いて、ひとりだけ生き残ろうとする人間ではなく、自分より弱い存在を助け、他人と共に生きようとする心を身につけた人間を育てていきます。

今年も七月に一年生は基礎演習のクラスごとに分かれて、社会福祉施設、デイサービスセンター、や保育園、海岸清掃などのボランティア実習に励みました。また、二年生以降はそれまでの経験と知識を活かして、さらに自主的、継続的にボランティア活動を行えるように、「ボランティアA、B、C、D」の四科目を新設しました。訪問介護員二級資格取得講座が開講され来年度からは共生社会学科が新設されるなど、本学は金学をあげて、ボランティア精神に基づく人間教育の一層の充実に取り組んでいます。（ボランティア委員会）



お互いの気持ちが伝わりあった1日

「双向性」の関係で ボランティアと私

国際文化学科一年

松本 隼文

今回のボランティア実習の内容が、野鳥観察とバーベキューだと決まったとき、私は意外な印象を受けました。ボランティアというのは、障害者やお年寄りの手伝いをすることだと思っていたからです。しかし、新発田自立生活センターの方たちの要望は、生活の手伝いではなく、お互いに交流を楽しむということでボランティア活動をしてほしいということでした。これは、「ボランティア論」の授業にあったように、市民の立場で、社会の発展や、豊かな生活のためにする活動全般が、ボランティアであるということなのだと思います。これに気づいたとき、自分の視野が広がりました。

さて、ついにボランティア実習の日がやつてきました。始めは、なにか手伝いたい

私は、ボランティアというものは、相手のことを思いやる気持ちに積極性が加わることによって成り立っているものなのだと強く実感しました。どうしたらよいのか困ったら、ボランティアの相手や自分より経験のある人に積極的に質問し、相手の希望を実行に移していくことが大切なのです。

よく分からぬまま行動したら、ボランティアの基本である、「相手のペースに合わせる」、「自分のやり方を押し付けない」といったことができなくなってしまいます。

今回の実習で私が持っていた、障害者の方の役に立ちたい、一緒に楽しみたいという思いは、こちらから相手に声をかけた瞬間から現実のものになりました。役に立ちたいという私から相手への思いと、どうして欲しいかという相手から私の希望の両方が伝わったからこそ、楽しく交流できたのです。つまり自分と相手に「双向性」の関係ができたとき、相手と共同で相手の望むものが実現できたときこそ、ボランティアをしたといえるのです。

と思いながら、どうすればいいのかわからず、おろおろしてしまいました。自立生活センターの方たちも遠慮してしまい、上手くコミュニケーションがとれませんでした。しかし、私は思い切って「何かお手伝いさせてください！」と声をかけてみました。するとその方は、こういう風に肩を貸してくれ、と説明してくれて上手く手伝うことができたのです。同じように、他の仲間たちもそれぞれ手伝うきっかけが作れたようで、全体で楽しく交流することができました。

卒業生

卒業生は今

喜びをあたえる介護をめざして

二〇〇一年度卒業生 榎沢 真吾

ブナザワ



お年寄りに喜びを 榎沢さん

この四月から新井市にある老人福祉施設「みなかみの里」で介護職員として働いています。この施設は主に寝たきり、車イスなどの重度の介護を必要とする方々を対象としています。

勤めはじめてあつという間に数ヶ月が経ち、一日の仕事の流れ、介助のやり方は、ほぼ分かってきました。あとは的確に要領よく仕事がこなせるようになりたいと思っています。ですが、相手のペースがあることなのでこれが結構難しいのです。夜勤の

時は、二人で五十人程度のオムツ交換、トイレ誘導をしなければなりません。時間内に終わらせようとしても、なかなか動いてくれません。いけないと分かっていても、イララしてきつく当たってしまうこともあります。本当に辛抱、辛抱で、人間が鍛えられます。

まだやりがいのある仕事といえるほどにはなっていませんが、最近、介護の仕事の面白さを感じてきました。お年寄りたちは、家族と離れて暮らし、毎日寝て起きてのくり返しで、何が楽しみなんだろうと思うと何だかかわいそうになってしまいます。だからこそ、そんな時に喜びを与えてあげられる介護をしたいと思っています。これからも頑張っていきます

幸せを与えられる仕事

二〇〇二年度卒業生 飯田 圭子

私は今、敬和学園大学のボランティア・コーディネーターである山崎ハコネ先生が運営する「からし種の家」と「マナ」というお年寄りのグループ・ホームで働かせていただいています。

私は今、敬和学園大学のボランティア・コーディネーターである山崎ハコネ先生が運営する「からし種の家」と「マナ」というお年寄りのグループ・ホームで働かせていただいています。

仕事の内容としてはトイレのお世話、食事づくり、散歩などです。私は正直、ここで働くまではお年寄りと接する機会がなく、自分でもこのような仕事に就くとは思つてもいませんでした。お年寄りとの接し方、もちろんトイレのお世話の仕方なども全くわからないまま、不安とともにこの仕

事に就きました。しかし、職場の人や親切心と、なによりお年寄りの笑顔があつて、この数ヶ月働くことができたと思っています。今では不安もなく、毎日楽しく笑顔でいられる自分がいます。そして、お年寄りと接する仕事ができることへの感謝と幸せな気持ちでいっぱいです。人と触れ合える仕事は、大変なこと、辛いこと、悲しいこともあります。それ以上に自分に幸せを与えてくれる仕事だと思います。

在学生のみなさん、敬和学園大学は他の大学と違い、心の教育というものを大切にしている大学だと思います。学生時代に自分から進んでボランティア活動をして、お年寄りや子ども達、そして自然など触れ合つて欲しいと思います。それは、必ず自分の心に良い影響を与えてくれ、しっかりととした自分の価値観や職業観といったもの



毎日笑顔で働く飯田さん

教職課程

教育実習のご報告

教職課程の所定の単位を修得した学生は、四年生で母校での教育実習を行います。これから教師を目指す学生にとって、教師という仕事を観察し、体験する大切な場となっています。教育実習を終えた学生の多くは、教師という仕事を対するしつかりとした職業観を持って帰ってきます。本学では、少人数教育のメリットを生かし、このような教師を目指す一人ひとりの学生をサポートしています。

(教職課程委員会)

教師という仕事

英語英米文学科四年
佐藤和美

私にとって母校に教育実習に行くということは、教職課程で勉強し始めた三年前から楽しみにしていました。そのころはまだ三年も先のことと思つていましたが、あつという間に三年が過ぎ、気がつけば母校の教壇に立っていました。

直に反応してくれ、生懸命に授業を理解しようとします。つまらない、退屈と感じながら授業を進めると生徒もそう感じます。懸命に伝えようとすれば、生徒もそれに答えると必死になります。生徒は教師を見ているのだと感じました。

この実習を通じて、授業以外のことの大変さも知り、教師という仕事は授業を進めるだけではないことがよくわかりました。「教師というのは、大変と感じる分だけやりがいがある仕事なのだ」と、指導していく言葉は二週間しか実習していない私にも理解できるものでした。

教育実習事前指導宿泊研修を終えて
英語英米文学科二年 佐藤 満

九月一日から三日かけて、教職課程を履修している一年生十四名で「国立妙高少年自然の家」で宿泊研修を行ってきました。私たち二、三ヶ月前から試行錯誤を繰り返しながら、この合宿のプランを立てました。単に楽しくキャンプをするだけではなく、自然との触れあいを考慮しつつ、活動内容を考えることには相当頭を悩ませまし



母校で教育実習中の佐藤さん

教育実習事前指導宿泊研修を終えて 英語英米文学科二年 佐藤 満

不安な気持ちはありませんでした。一人で母校に行つたことで、これまで三年間一緒に勉強をしてきた教職課程の仲間たちが私にとつてどれほど心強い存在なのかをあらためて感じました。しかし、それよりも、「やつと楽しみにしていた実習を行ける」、「中学生と接することができる」、「夢見ていた職業に一步近付ける」といった期待の方がはるかに大きかつたです。

たった一週間という短い期間でしたが学ぶことはたくさんありました。実際に教師の仕事を体験してみて、ますます教師という仕事に魅力を感じました。生徒が成長していく姿を身近に感じることができ、自分も一緒に成長することができる素敵な職業だと改めて感じることのできた一週間だつたと思います。

した。一人一人が誰に言われることなく責任を持って自分の仕事を行い、それぞれの活動に積極的に取り組むようになつたのです。合宿中はもちろん、それ以上にこのキャンプのためにみんなと過ごした時間は一生の財産になりました。



教職課程

在学生のみなむく Chance! Challenge! Change!

一九九五年度卒業生 森 美智子



聖籠中学校の教室に立つ森先生

みなさん、3Cといふ」とばを知っていますか。Cで始まる三つの単語です。chance (機会) challenge (挑戦) change (変化)、私はこの言葉を大切に日々、生活しています。与えられた機会を逃さずに挑戦すれば、必ず自分を変えることができるのです。

教員七年目、勤務校三校目の現在、聖籠町立聖籠中学校に勤務しています。大学と密接な関わりをもつ聖籠町に勤務できることに感謝しています。

3Cは私自身のモットーであり、子どもと関わる上で大切にしている言葉です。教員になって思うことがあります。それは中学生に『これだけは誰にも負けない』

と思えるような、きっかけ作りの環境を提供する」とです。子どもが小さなきっかけを見逃さないように、普段の生活の中で声かけを心がけています。(chance)
また子どもと接する時は、子どもの立場に立って気持ちを考えるようにしています。自身の今の気持ちを大切にしながら、周りとの関係について考え生活しています。子どもが、目標に向かって失敗を恐れずに進めるように支援したいと思います。

子どもたちに寄り添うことで、私自身に気持ちの変化が生まれました。それは子どもと接する時の表情や何気ない言葉で、小さなきつかけを大切にし、目標に向かって本気で進んだ時の自分の変化を感じてほしいと思います。(change)

子どもを目の前にした時に、自分に何ができるのかが問われます。自身の考え方をしっかりともち、生徒の前に向かうことが大切です。今の私を支えているのは、いつも支えてくださった先生方や大学の友人、子どもたちがいるからだと思います。全ての方に感謝しています。

教員を目指しているみなさん、夢はかなえるものです。私はガーベラという強くて優しい花が大好きです。凛としていつも太陽に向かってまっすぐに立っている花を見ると、自分自身もと前進しなければいけないという気持ちになります。失敗を恐れず、自分を一步前に出し前進してください。私はみなさんと同じ職場で勤務できることを願っています。敬和学園大学のみなさん、応援しています。

第二回 中学校・高等学校英語科教員のための
リフレッシュ・セミナー ご案内

今年も十一月二十九日に中学校や高等学校、塾などで英語教育に携わる先生方や英語科教員を目指す学生を対象にしたリフレッシュ・セミナーを開催いたします。

今回のテーマはTextbook "Plus"です。テキストに基づいた「読む」「書く」「話す」というスキルの養成、ALTとの連携の仕方、テストの作成、映画等メディアの活用方法など、与えられたテキストの内容を補完する様々なアクティビティについて、一緒に考えたいと思います。

先生方ご自身の英語の「ラッシュ・アップ」と授業で使ったアイディア提供の場、そして英語教育に携わる先生方の交流の場となればと願っています。プログラムの詳細等は、これまでご参加いただいた先生方や、県内の中学校、高等学校向けに十月半ばにご案内申し上げます。みなさまのご参加をお待ちしております。

日 時	十一月二十九日(土)
会 場	敬和学園大学
参 加 費	千円(希望者は昼食代五百円)

※お申し込み・お問合せ

敬和学園大学 総務課
電話 011-541-1161-11394

就職

インターンシップ制度 就職にむけて

インターンシップ制度は、一般的には在学生を対象とした就業体験（職業研修）のことを広く意味します。厳しい社会経済状況を背景として、就職活動の早期化と採用人数の厳選化が進んでいます。一方で、就職後の短期離職率も増加しております。敬和学園大学は、実社会の窓口に立つ教育機関として、このような問題に対処するため、二〇〇一年度から夏期休暇中を利用したインターンシップ制度を導入しました。そして昨年度からは正規の開講科目として単位認定を行っています。

本年度は、官公庁と民間企業を合わせて七団体の受入先を確保し、十四名の学生が参加しました。学生には本制度を通じて、「はたらくこと」の意味を少しでも実感してもらいたいと考えております。

（就職委員会）



インターンシップ中の川崎さん

（英語英米文学科三年 川崎由貴）

私は、新潟グランドホテルの「スパークル」という喫茶店で一週間インターンシップをさせていただきました。

そこは信濃川を一望できるとても華やかな場所でした。しかし、私を待っていたのは、その裏側にある調理や洗い物などの仕事でした。忙しい時間帯には、次々と来る食器についていけずに入り込んでしまって、注意を受けたり、足手まといになつたりと大変な毎日でした。

仕事に対する要領の悪さが実習中の大きな悩みとなり、自分が社会へ出ても通用しないのではないかと不安になりました。しかし、何日か働いているうちに私は従業員の方々の仕事に対するプロ意識を感じるようになります。それは今の私は欠けていたものでした。プロ意識があるからこそミスを見付ければ強く注意する。当たり前のようにですが、私はこのことを身体で感じることができました。それから少しずつ悩みは解消され、気が付けば実習は残り僅かとなっていました。

私はインターンシップによってホテルの華やかさ、そして厳しい裏方の仕事、従業員の方々のプロ意識に触れることができ、本当に良い経験をさせていただきました。この経験が、これから社会に出て行く大きな助けになると思っています。

プロ意識に触れた一週間



（英語英米文学科三年 川崎由貴）

OB・OGとの就職懇談会

去る七月九日（水）に、「二〇〇三年度OB・OGとの就職懇談会」が開催されました。今回も実社会で活躍中の第七・八期生を代表して、大変お忙しい中、四名の卒業生にお越しいただきました。

毎年感じられることですが、ひとりの社会人としての自覚、職業人としてのプロ意識、そして将来にかける夢に至るまで、身近な先輩方の体験発表は私たちの心を打つものでした。時にメモを取りながら、在学生たちは次第に真剣な表情へと変わっていました。わずか数年しか違わないはずの先輩たちに、一步成長した大人の姿を認めました。

OB・OGの活躍は、着実に敬和学園大学の社会評価を高めていることと想いました。先輩方に心からお礼申し上げつつ、一層の健やかな活躍をお祈りしてやみません。

OB・OGの活躍は、着実に敬和学園大学の社会評価を高めていることと想いました。先輩方に心からお礼申し上げつつ、一層の健やかな活躍をお祈りしてやみません。

（就職委員会）



卒業年度	氏名	就職先
2000	乙川 雅貴	新潟県警察官
2000	齋藤 景子	新潟総合警備保障株
2001	阿部 友恵	株式会社カワチ薬品
2001	大平 勉	J A全農にいがた

ご案内

共生社会学科新設記念公開学術講演会

「文化の多様性を生かす 地球社会を目指して」

一〇〇四年度から敬和学園大学に共生社会学科が新設されることを記念して、公開学術講演会を開催いたします。

新しい時代を迎えた今、世界の多様な文化間、言語間、地域間の対話に求められるものは何でしょうか。著名な講師をお迎えして、地球社会の成長と共生のために私たちが果すべき役割について共に考えます。みなさま、ぜひご参加ください。

日 時 十二月六日（土）十三時（予定）

諸般の事情により、中止となりました

学術講演

I. 「限りなくチャレンジングな
『国際文化学』」

平野 健一郎氏

早稲田大学教授、日本国際文化学部。

専攻は国際関係論、文化人類學・歴史等。
中国の近代化を中心とした文化的国際關係を研究。

II. 「世界平和のための

『英語』と『ユーモア』

村松 増美氏

NPO法人・えむ・えむ国際交流協会代表。

元サマー・アカデミー校長。
英日同時通訳バイオニアとして、アボロ宇宙
船員、先進国サミット、通訳者の養成等に活躍。

※お問合せ

敬和学園大学 総務課

電話 〇一五四・一六一・一三九四

※お問い合わせ

敬和学園大学 就職指導室

電話 〇一五四・一六一・一五六四

※お申し込み・お問合せ

敬和学園大学 教務課教務係

電話 〇一五四・一六一・一五一四

三年生の保護者のみなさま 「保護者との懇談会」のご案内

本学と後援会の共催で、三年生の保護者のみなさまを対象とします「保護者との就職懇談会」を次のとおり開催いたします。

景気の動向は依然として低迷しており、厳しい就職状況が続いております。本学では全学を挙げて就職活動に取り組み、学生の指導にあたっておりますが、学生自身の自覚と保護者のみなさまのご理解がよりいっそう重要なこととなってきております。

ご多忙なことと存じますが、就職を控えた三年生の保護者のみなさまには、ぜひともご出席くださいますようお願いいたします。なお、この懇親会の費用は後援会で負担いたしますので、会費は不要です。

日 時 十月十八日（土）
十五時三〇分～十九時（予定）

会 場 ホテルオークラ新潟（無料）

第一部

挨拶 敬和学園大学長 新井 明

講演 「本学における進路指導の取り組みについて」

懇親会 本学教員との懇談

※お申し込み・お問合せ

一・二年生の保護者のみなさま 「保護者との懇談会」のご案内

この度、一・二年生の保護者のみなさまを対象とします「保護者との懇談会」を、次とおり本学後援会との共催で開催することになりました。この計画は、かねてから一・二年生の保護者のみなさまより、お子さまの学業成績、学生生活等の様子について聞ける懇談の機会を設けて欲しいとのご要望いただいたことを受けまして開催するものです。

会は二部構成で行い、一部では保護者のみなさまに本学の教育内容についてのご理解を深めていただきたいと考え、本年四月に就任しました新井明学長と教務部長の山田耕太教授が「敬和学園大学の教育方針について」と題し、お話し申し上げます。また、引き続き行われる第一部は懇親会形式により、保護者のみなさまと日常頃アドバイザーとしてお子さまと接している本学教員との間で、学業成績や今後の学生生活などについての意見交換を行う予定にしております。出来るだけ多くの保護者のみなさまにご来臨賜りますようお願いいたします。

日 時 十一月一日（土）
十一時～十四時（予定）

会 場 敬和学園大学（無料）

※お申し込み・お問合せ

告報

共生社会学科新設記念 特別講演会 前日本銀行総裁 速水 優氏の「明日の日本を考える」を聞いて

来年四月からスタートする「共生社会学科」の新設を記念して、九月十三日（土）新発田市民文化会館にて前日本銀行総裁速水優氏による「明日の日本を考える」と題する特別講演会が行われ、約三〇〇名の市民が真剣に耳を傾けました。

速水氏は自分の生い立ちの中で、決定的な影響を与えた出来事として長兄の死を述べられました。長兄は応召で中支（今の中中国）へ往き、結核に罹り内地へ送還、東京の病院で召されたのです。長兄のクリスチヤンとしての死に方が極めて立派であったことから、氏も一橋大学の学生であつた終戦の年のクリスマスに阿佐ヶ谷教会で



講演中の速水先生

大村勇牧師（後に敬和学園の初代からの理事、第二代理事長）から洗礼を受け、クリスチヤンとなつたのです。

大学卒業後日本銀行に入行、三十四年間勤務（内三年間理事）、日商岩井の専務、副社長、社長、会長、相談役、経済同友会代表幹事、東京女子大理事長、日本銀行総裁と華やかな経歴の中で、苦難に遭ういつも聖書の言葉に力づけられて、乗り切つてくことができたそうです。

明日の日本を考える時、構造改革をし、民間企業が収益を上げる必要があること、民間企業には知恵と力があることを実例を挙げながら説明されました。企業が収益を上げられればデフレは消えて行くこと、また、日本は世界第二の経済力を持っていること、余り言われないが、我が国には森林資源が国土の六十五%もあり、水の豊さは大きい力になることを述べられ、厳しさや暗さばかりが目立つ。昨今、努力をすれば明るい未来があることを強調されました。



速水先生を囲んで、敬和学園大学前にて

速水氏は講演会の後、敬和学園高校と敬和学園大学を訪れました。氏は今までに学園に多額の寄付をして下さっていましたが、今回が初めての来訪でした。校長・教頭、学長から教育方針と実際に行われている教育内容を聞き、敬和の素晴らしさを実感されたと感想を述べられ、敬和学園への

（事務局長 宇田川）

この特別講演会に引き続き、九月二〇日より、本学を会場にして、「共生社会学科」教員予定者による連続講演会が行われました。オープン・キャンパスが行われた九月二〇日は山崎ハコネボランティア・コーディネーターによる「普通に暮らす社会へ」、九月二十七日は石川喜一教授による「医療と共生社会」、十月四日は矢嶋直規助教授による「共同体と倫理」と題した講演がそれぞれ行われ、多数の市民のみなさまに参加していました。敬和学園大学の目指す「共生社会」の一端に触れていたたくことができたと同時に、我々も新設される「共生社会学科」への地域からの期待を感じる機会となりました。誠にありがとうございました。

入試

オープンキャンパスのご報告と二〇〇四年度入試について

オープンキャンパスが七月二十七日(日)と九月二〇日(土)に開催され、両日ともに多数の参加者を得て盛況のうちに終了しました。

オープンキャンパスが七月二十七日(日)と九月二〇日(土)に開催され、両日ともに多数の参加者を得て盛況のうちに終了しました。

お待ちしています。



今年度のオープン・キャンパスの様子



入学試験の詳細につきましては
入試室(0120-116-3637)
までお問い合わせください。

二〇〇三年度の入学生のはば半数、とりわけAO入試や推薦入試を受験して入学した学生の七割以上が前年度のオープンキャンパスに参加しています。実際に自分の目で確かめること、これが本学の魅力を知つていただく最善の方法です。また、本学の見学は、年間を通して随時受け付けております。残念ながらオープンキャンパスに参加できなかつた、という方のお申し込みをお待ちしています。

推薦入試は、十一月一日より出願が開始となり、試験日は十一月二十二日(土)です。指定校推薦(面接のみ)は専願制で、一般推薦(面接と小論文)は併願が可です。入学年次に授業料、施設設備費の全額が支給され、二~四年次も同内容の資格を有する特典が与えられる特待生試験(面接と小論文)もあわせて行われます。

二〇〇四年度入試は、すでにAO入試がスタートしています。一回の面談を行い、大学側と受験生がお互いを理解し、納得し合った上で合格を決定する試験です。オープンキャンパスの参加者には、簡単な体験レポート(感想文)を提出いただくことにより、面談を一回ですませるタイプの試験も用意されていますので、ぜひご利用ください。

寄付者ご芳名

一般 高教組新発田支部女性部

白鳥 すま子

讃岐 和家

松井 愛美

岡崎 晃

上原 幸次郎

鷹澤 昭一

オレンジ会

敬和学園大学後援会

新井 明3

千葉 俊志

桑原 裕美

星 弘子

上田 純子

土屋 弥生

一九九二組
一九九五組
一九九八組
一九九九組

合コン
10月
ナニモ
無情!

敬和祭のご案内

第13回

地域のみなさまの暖かいご支援で、今年で敬和祭は十三回目を迎えます。今年のテーマは「二〇〇三 Sympathy（共鳴）」です。敬和学園大学が人格教育と国際化を担う大学として、地域社会、そして世界に共鳴し交流を広げていくという、敬和祭実行委員会からのメッセージを含めたテーマです。

今年の目玉は、十一月八日（土）、地元新潟を中心に活躍する高岡奈央さんのライブ、十一月九日（日）「島の見える街」の監督・脚本家のトークと同時上映会になります。高岡奈央さんの曲、「コメノチカラ」はサッカーJ2リーグのアルビレックス新潟のオフィシャルソングに決定しています。また、「島の見える街」は、本学卒業生の鈴木貴之さんの初監督作品の映画となります。

その他にも、学生ライブやバラエティー豊かなメニューの屋台、ゼミの教室展示などプログラムは盛りたくさんです。さらに、響・聖籠太鼓と新潟万代太鼓が連日敬和祭を盛り上げます。

日頃のみなさまへの感謝の気持ちと、学生たちの普段の活動の成果を披露するためには、敬和祭実行委員会が中心となり実施に向けて頑張っています。敬和祭が、参加されるみなさんが大いに楽しめる地域のイベントとなるようにと考えています。ぜひ、お友達とお気軽に遊びに来てください。お待ちしております。（敬和祭実行委員会）

月 日	時 間	企 画
11月 8 日	13:30~15:30	ふれあいバラエティ
	11:00~16:00	屋台模擬店・教室展示
	11:00~15:00	茶道部 茶会
	12:00~13:00	演劇部 公演
	13:00~13:30	響・聖籠太鼓
11月 9 日	15:00~16:00	高岡奈央 ライブ
	11:00~16:00	屋台模擬店・教室展示
	11:00~17:00	バスケットボール大会
	11:30~14:00	FMしばた生中継・収録
	12:00~16:30	学生ライブ
	12:30~13:00	なまらトークリブ
	13:00~13:30	新潟万代太鼓
	14:00~16:00	「島の見える街」上映会
11月 7 日	17:00~19:00	後 夜 祭
	13:30~15:30	ふれあいバラエティ



昨年度の敬和祭の様子

学事予告

十一月	十二月	一月	二月	三月
六 日	六 日	一・二年生保護者との懇談会 ふれあいバラエティ	十五日 敬和祭（九日まで）	三条市オープン・カレッジ①
十九日	二十九日	新潟オープン・カレッジ 就職内定者の体験発表会 英語科リフレッシュ・セミナー	十八日 敬和祭（九日まで）	聖籠町オープン・カレッジ②
二十二日		（十六日まで）	二十一日 企業との就職懇談会	三条市オープン・カレッジ③
二十三日			二十二日 圣籠町オープン・カレッジ④	聖籠町オープン・カレッジ⑤

- 十一月
一・二年生保護者との懇談会
ふれあいバラエティ
- 二月
敬和祭（九日まで）
- 三月
三条市オープン・カレッジ①
聖籠町オープン・カレッジ②
三条市オープン・カレッジ③
聖籠町オープン・カレッジ④
聖籠町オープン・カレッジ⑤

キャンパス日誌

7月

- 8日 新発田市オープン・カレッジ⑥
講師 前嶋和弘 専任講師
「アメリカの食とグローバリズム」
- 9日 敬和ボランティア・デイ
OB・OGとの就職懇談会（写真）
小千谷西高校学校見学
(生徒19名、教員1名)
- 10日 豊栄市オープン・カレッジ④
講師 松本ますみ 助教授
「日本とアジア
一仲良くなるための秘訣は何？」
- 11日 辞令交付
チャペル・アッセンブリー・アワー⑫
説教 新井明 学長 「くつを脱げ」
講演 フリーカメラマン 杉本祐一 先生
「イラクで人間の盾となって」（写真）
- 14日 前期講義終了
- 15日 补講日（～18日）
- 16日 教授会
- 17日 豊栄市オープン・カレッジ⑤
講師 前嶋和弘 専任講師
「“アメリカ”とは何か」
- 22日 辞令交付
前期未試験（～30日）
- 24日 豊栄市オープン・カレッジ⑥
講師：ジェームズ・ブラウン 教授
「日本語は面白い
—英語の話し手から見た
日本語のフシギ」
- 27日 オープン・キャンパス①（参加者116名）
- 31日 理事会

8月

- 1日 村松高校学校見学（写真）
(生徒16名、教員2名)
- 2日 カリフォルニア州立大学サンバナディーノ校
夏期短期留学出発（～9月7日）(5名)
ワシントン・アカデミー・オブ・ランゲージーズ
夏期短期留学出発（～9月7日）(3名)
- 3日 夏期休暇（～9月24日）
- 4日 前期集中講義（～8日）
- 18日 MOUS Word講習会（16名）（～29日）
- 19日 新発田まつり民謡流し 練習日
- 21日 新発田まつり民謡流し 練習日
- 22日 職員研修会（～23日）
- 27日 新発田まつり民謡流し
(参加者：学生37名、教職員20名)



29日 十日町中学校学校見学会（生徒9名、教員6名）

9月

- 1日 教職課程事前指導宿泊研修
於 国立妙高少年自然の家（～3日）
簿記検定講座開始（16名）
公務員講座開始（14名）
新発田商業高校学習講座（生徒82名、教員2名）
- 10日 前期追試験
- 13日 共生社会学科新設記念特別講演会
「明日の日本を考える」
講師 速水優 前日本銀行総裁
於 新発田市民文化会館
- 17日 教授会
就職対策講座（～18日）
佐々木小学校校区内遠足（約180名）
- 18日 理事会
- 19日 新発田市施設見学（一般市民50名、市職員2名）
- 20日 オープン・キャンパス②（参加者112名：写真）
共生社会学科新設記念
連続講演会①
講師 山崎ハコネ
ボランティア・コーディネーター
「普通に暮らす社会へ」
- 22日 前期卒業式（1名卒業）
- 25日 履修指導日
- 26日 後期講義開始
履修登録期間（～10月3日）
チャペル・アッセンブリー・アワー⑬
説教 新井明 学長「静かに生きよ」
- 27日 共生社会学科新設記念連続講演会②
講師 石川喜一 教授
「医療と共生社会」
- 30日 聖籠町オープン・カレッジ
「アメリカという国」①
講師 前嶋和弘 専任講師
「第二次世界大戦後のアメリカと
世界の関係を考える」



訃報

去る9月14日、聖籠町網代浜で、国際文化学科4年生の堂後和幸さんが、海難事故でお亡くなりになりました。

お悔やみを申し上げるとともに心よりご冥福をお祈りいたします。

KEIWA チャレンジ学生ファイル⑤



国際文化学科 3年

長谷川 鮎美

『ドイツでの生活』

今年の夏、大学の自由留学制度を利用して、ドイツ語を学ぶために1ヶ月間、ドイツのチュービンゲン大学のサマーコースに参加してきました。日本に帰ってきて家族や友人から「ドイツはどうだった?」と聞かれることが第一の感想です。避暑を求めて行ったつもりが、今年の猛暑のために気温が35度~40度の毎日で、洗濯物を部屋に干していくても2時間もあれば完全に乾いてしまうほどでした。ドイツにはクーラーというものはどこに行っても存在しません。そればかりか、喉が渴いて飲み物を買おうと思っても自動販売機もなく、さらには土・日はほとんどの店が閉まってしまうので、ドイツの生活に慣れるまでは本当に苦労し、日本での生活がいかに便利かを痛感しました。

授業は、1クラス15人くらいの少人数で行われ、私のクラスではドイツ語に慣れるために自分の母語を話すことは禁止でした。そのおかげで、確実に耳に入ってくる単語が増えていくのが自分でもわかりました。午前は文法を中心に学び、午後はグループワークや公園でゲームをしたりして過ごしました。

毎日が新しいことの連続で、貴重な経験をすることができました。出発前はひとりで不安だらけであった私も、多くの人に支えられながら目標を達成することで自信をつけることができ、自分の視野が広がりました。

現地で出会った人たち、日本で応援してくれていた先生方や家族、友人に感謝しています。

敬和学園大学

www.keiwa-c.ac.jp